



I. 経営の考え方と 重要施策の展望

代表取締役社長
金子 慎

東海旅客鉄道株式会社
2019年4月26日

経営理念

日本の大動脈と社会基盤の発展に貢献する

取組み の方向

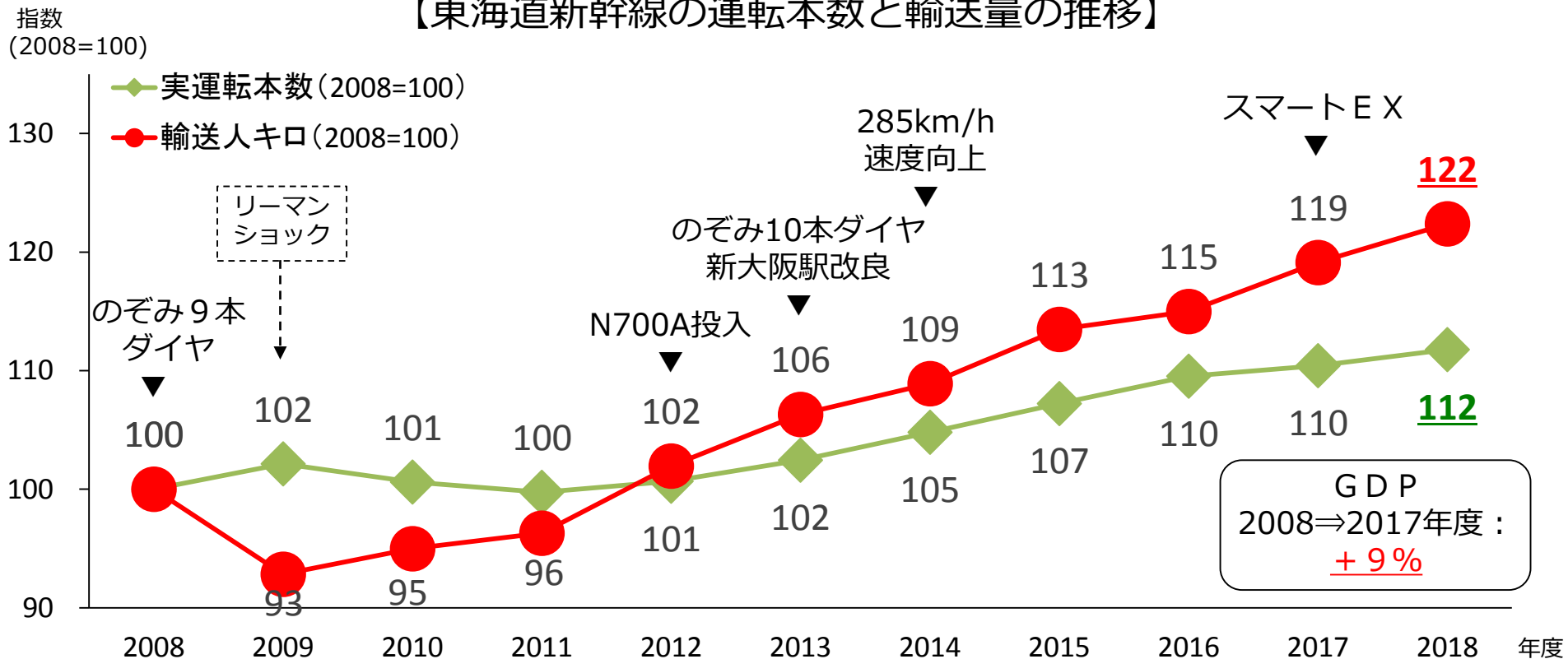
安全に仕事を
進める力

より良い
サービスを
提供する力

低コストで
効率的に
仕事をする力

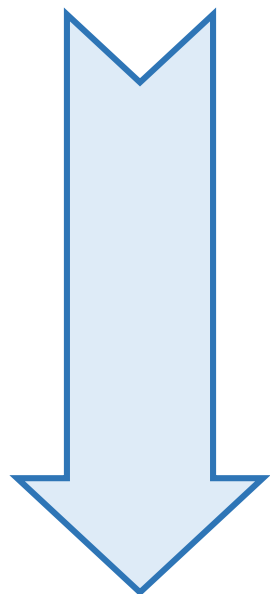
の「3つの力」を不断に向上

【東海道新幹線の運転本数と輸送量の推移】



≪2020年春「のぞみ 1 2 本ダイヤ」≫

- 「のぞみ」の運転本数の増加
 - ・「のぞみ」の1時間あたり片道最大運転本数を2本増やし、1 2 本にする。
- 「のぞみ」の所要時間の短縮
 - ・1 2 本全ての「のぞみ」が東京～新大阪間を2時間30分以内で結ぶ。



ネット予約・チケットレス乗車

- ・駅の窓口に並ぶことなく、スマホやパソコンから簡単に予約・変更が手数料無料で何度でも可能
- ・EX予約専用ICカード／交通系ICカードによるチケットレス乗車

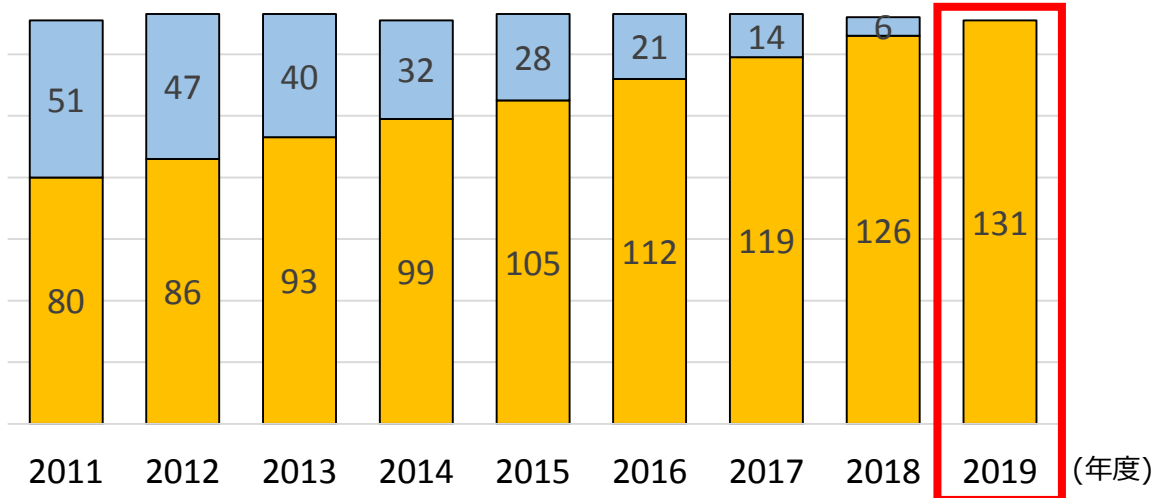


- ◆ご利用の多い時間帯に「のぞみ」を増発。
- ◆お客様がご都合に合わせて「EX予約」「スマートEX」でご予約頂き、スムーズにご乗車頂くことで、ご旅行の時間を短縮。

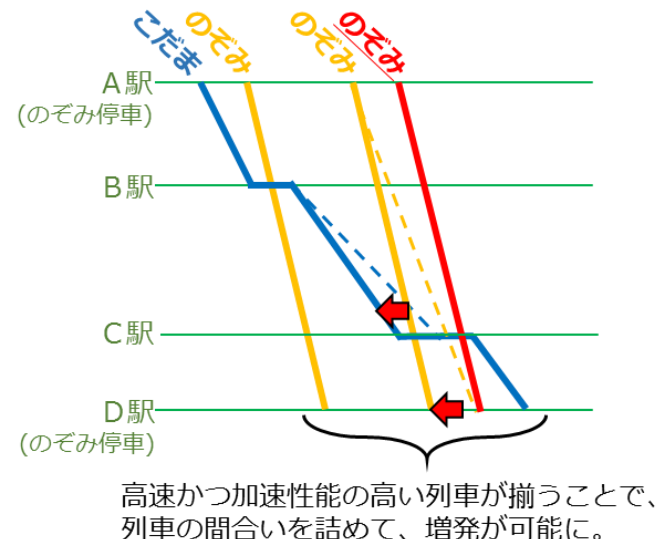
◆車種統一（オール285km/h化）

○年度末保有編成数の推移

■ N700Aタイプ ■ 700系



○車種統一の効果（イメージ）



◆折返し時間の短縮

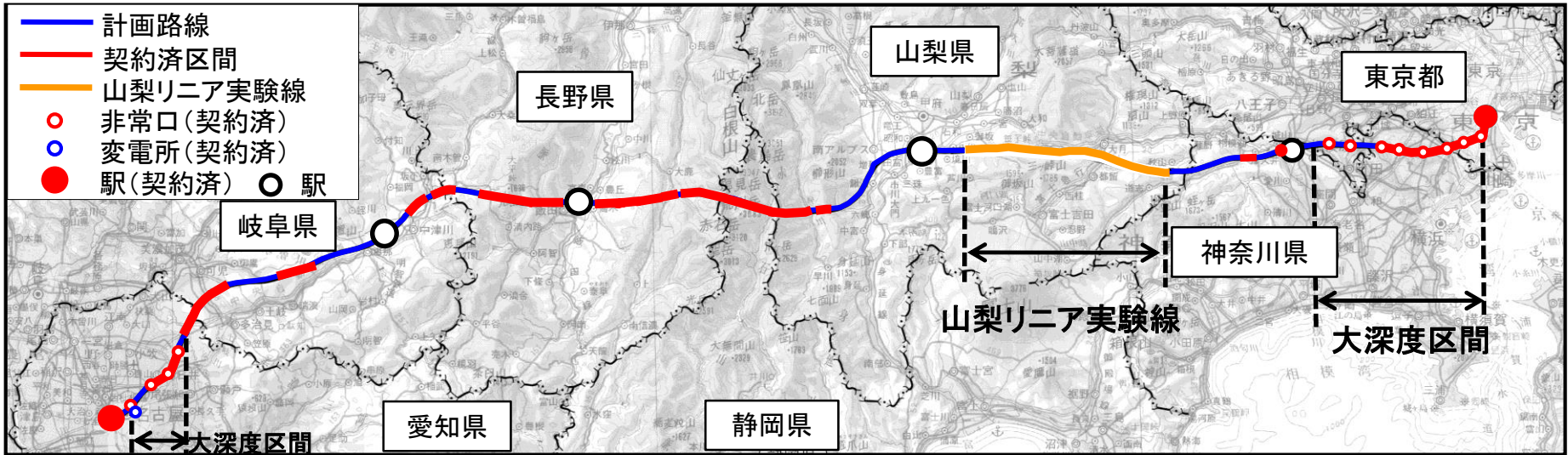
- (1) A T Cブレーキの改良（東京駅）
 - ・車両装置と地上装置を改修し、東京駅到着時に停車までにかかる時間を短縮。
- (2) 駅設備の改良（東京駅）
 - ・駅係員用の設備を改良し、折返し時間を短縮。
- (3) 清掃時間の短縮（東京駅、新大阪駅）
 - ・作業項目を精査し、作業時間を2分程度短縮。

◆列車本数の増加に必要な設備改良

- (1) 電力設備の改良
 - ・列車の運転本数の増加に備え、沿線の電力設備を改良し、電力の出力増強などを実施。
- (2) 運行管理システムの改良
 - ・指令所などで運用している運行管理システムを改良し、扱える運転データの件数を増加。

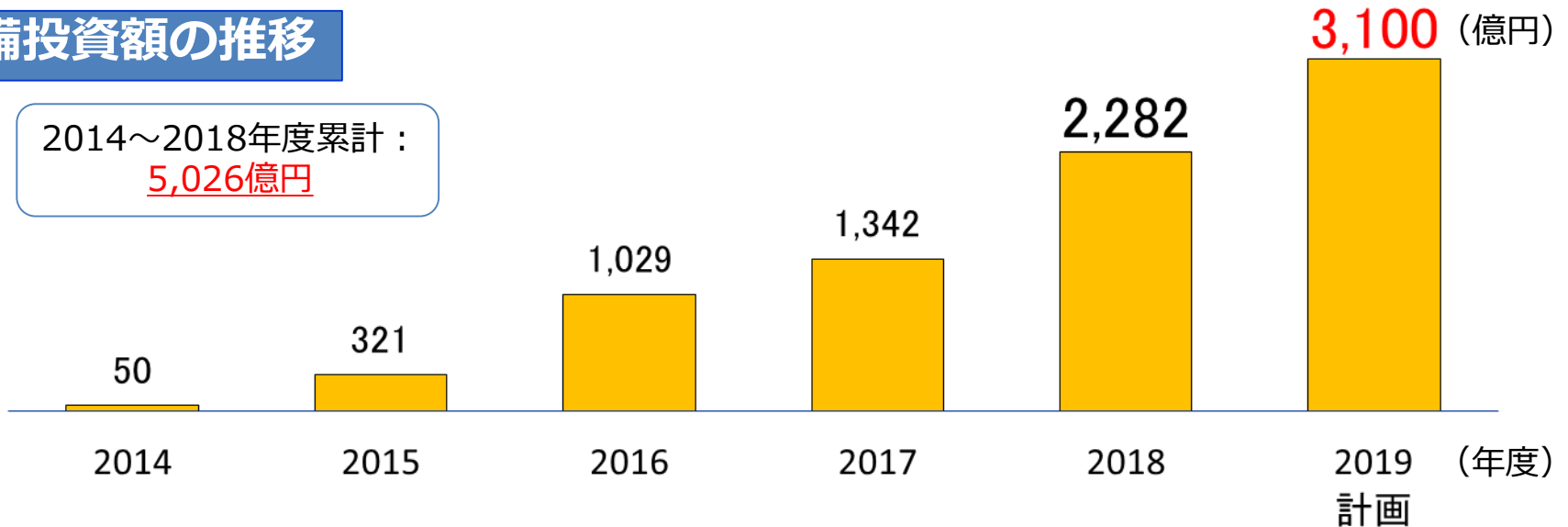
本体工事契約箇所

(2019.3.31現在)



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。(承認番号 平25情複、第310号)
 ※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。

設備投資額の推移



中央新幹線計画の進捗②

名古屋駅



新幹線部 地中連続壁構築

品川駅



工事桁架設

南アルプス
長野工区



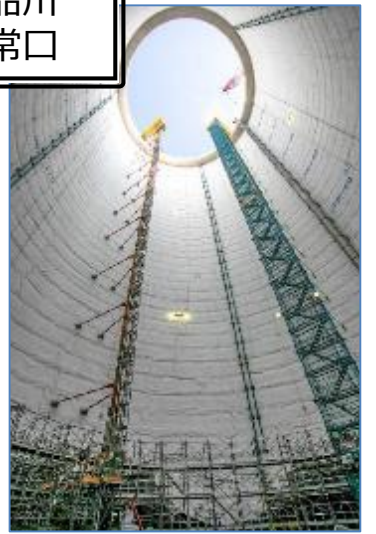
斜坑掘削

南アルプス
山梨工区



本坑掘削

北品川
非常口

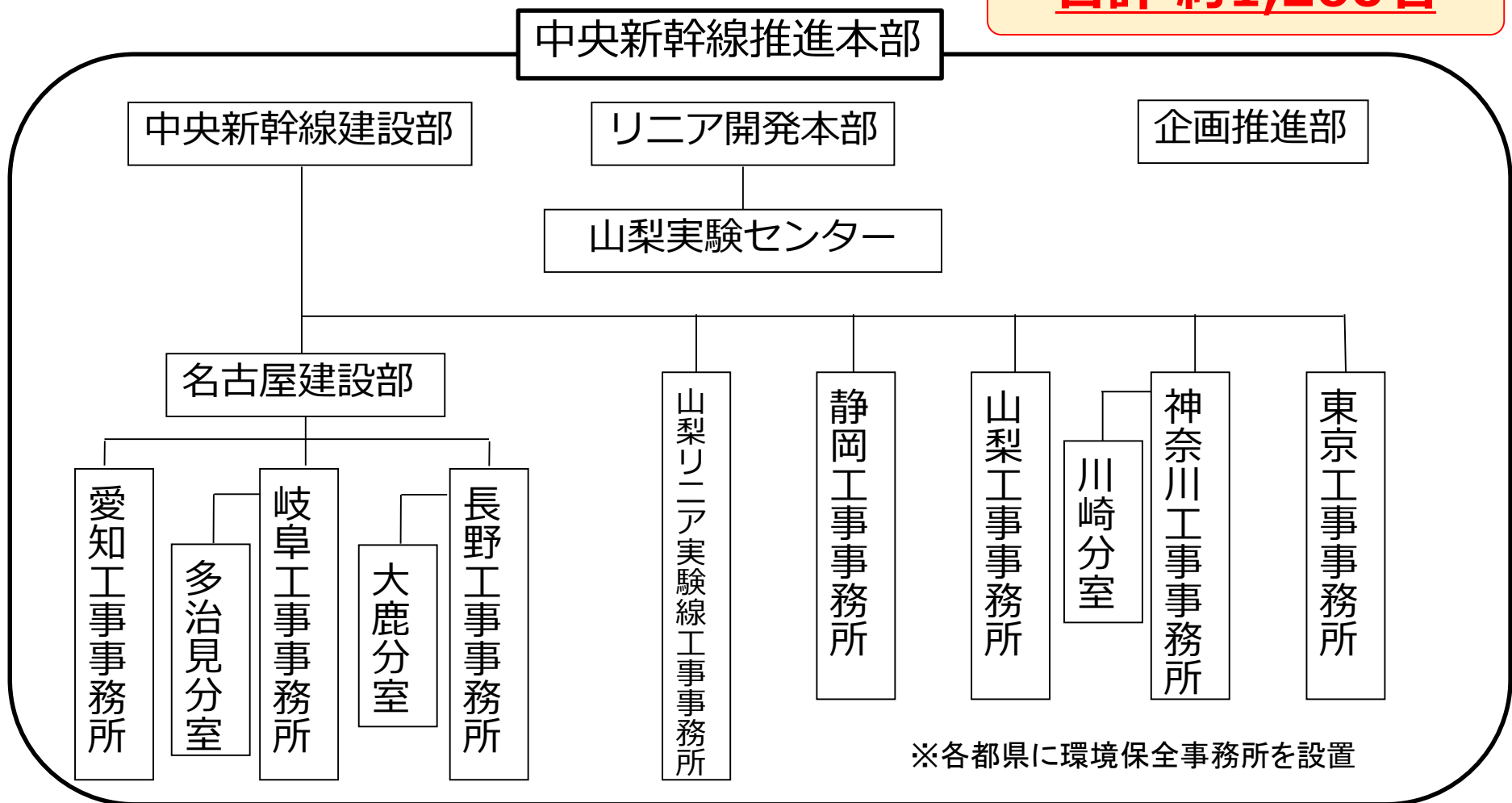


掘削完了、躯体構築

中央新幹線計画の推進体制

2018年7月1日現在

合計 約1,260名



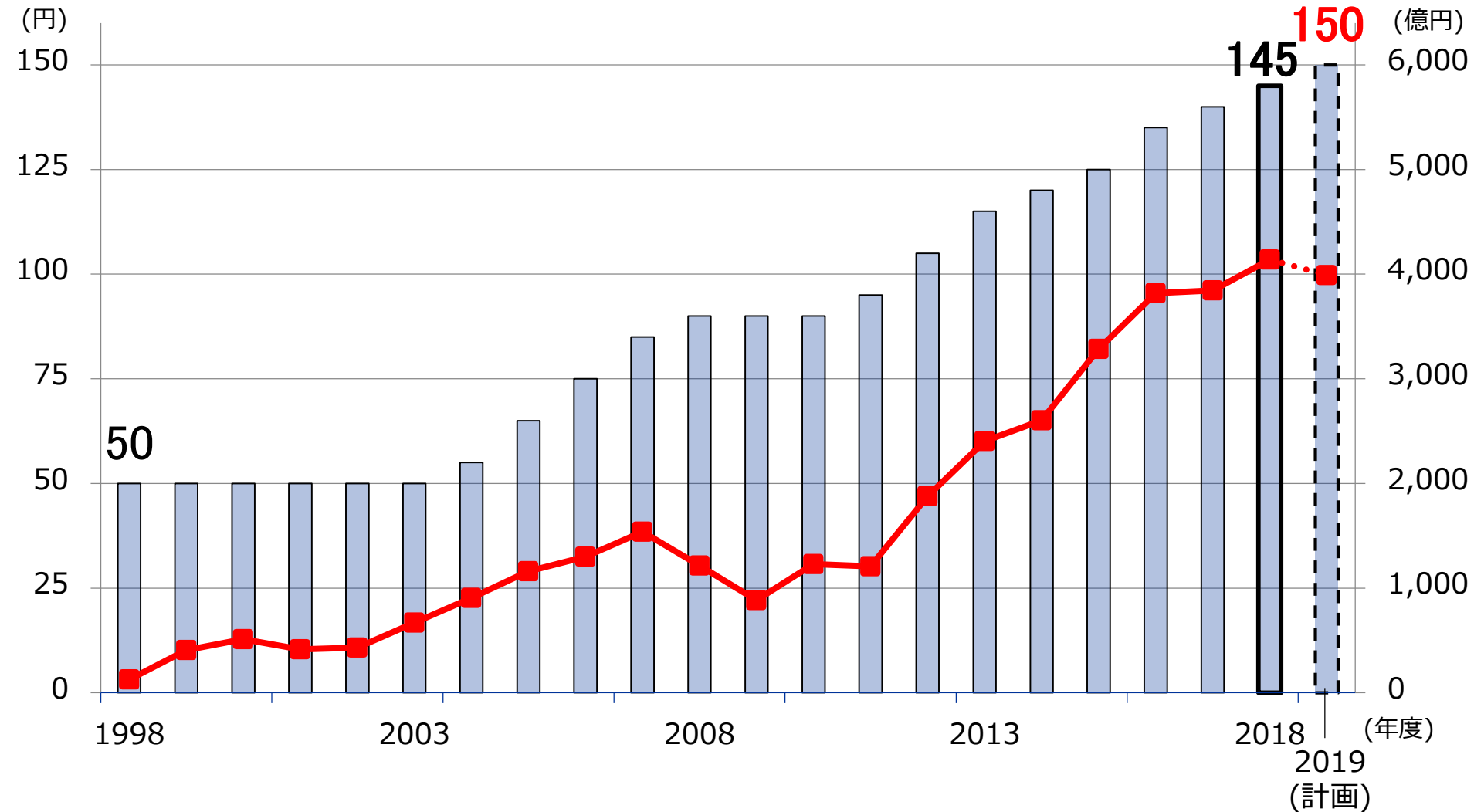
※各都県に環境保全事務所を設置

適切な体制を整え、全力を挙げて計画を推進

中央新幹線の建設期間中も安定配当を継続

【左軸】 年間配当

【右軸】 当期純利益（単体）





Ⅱ. 2019年3月期 決算概要

執行役員 財務部長
山田 龍彦

東海旅客鉄道株式会社
2019年4月26日

損益計算書（連結）

(億円)

	2018年3月期 実績 A	2019年3月期 実績 B	増減 (B-A)
営業収益	18,220	18,781	+560
営業費	11,600	11,683	+83
営業利益	6,620	7,097	+477
営業外損益	△784	△771	+13
経常利益	5,835	6,326	+490
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,955	4,387	+432

■長期債務実績

(億円)

	期末 残高	増減	中央除く	
			期末 残高	増減
連結	48,511	△50	18,511	△50
単体	48,511	△50	18,511	△50

■設備投資実績

(億円)

連結	単体	安全関連投資	
		安全関連投資	中央新幹線
4,673	4,488	1,701	2,282

セグメント情報 (連結)

(億円)

		2018年3月期 実績 A	2019年3月期 実績 B	増減 (B-A)
営業収益		18,220	18,781	+560
	運輸業	14,240	14,613	+372
	流通業	2,553	2,649	+95
	不動産業	780	821	+41
	その他	2,616	2,610	△5
営業費		11,600	11,683	+83
営業利益		6,620	7,097	+477
	運輸業	6,230	6,648	+418
	流通業	82	96	+14
	不動産業	185	202	+17
	その他	132	161	+28

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

キャッシュ・フロー計算書 (連結)

12

(億円)

	2018年3月期 実績 A	2019年3月期 実績 B	増減 (B-A)
営業活動によるCF	6,095	6,003	△92
投資活動によるCF	△16,764	△5,975	+10,789
有形・無形固定資産の取得等による支出	△3,069	△3,978	△908
中央新幹線建設資金管理信託による収入・支出	△13,681	1,703	+15,385
資金運用による収入・支出	△13	△3,700	△3,687
財務活動によるCF	14,347	△336	△14,684
うち 中央新幹線建設長期借入金による収入	15,000	—	△15,000
現金及び現金同等物の増減額	3,678	△308	△3,987
現金及び現金同等物の期首残高	4,145	7,824	3,678
現金及び現金同等物の期末残高	7,824	7,516	△308

損益計算書 (単体)

(億円)

	2018年3月期 実績 A	2019年3月期 実績 B	増減 (B-A)
営業収益 (運輸収入)	14,274 (13,583)	14,648 (13,966)	+374 (+383)
営業費	8,021	7,971	△50
人件費	1,796	1,797	+0
物件費	3,820	3,817	△2
動力費	391	431	+39
修繕費	1,454	1,405	△49
業務費	1,973	1,980	+6
租税公課	418	422	+3
減価償却費	1,986	1,934	△52
営業利益	6,252	6,677	+424
経常利益	5,476	5,901	+424
当期純利益	3,844	4,140	+296

Ⅲ. 2020年3月期 業績予想 Ⅳ. 主な施策展開



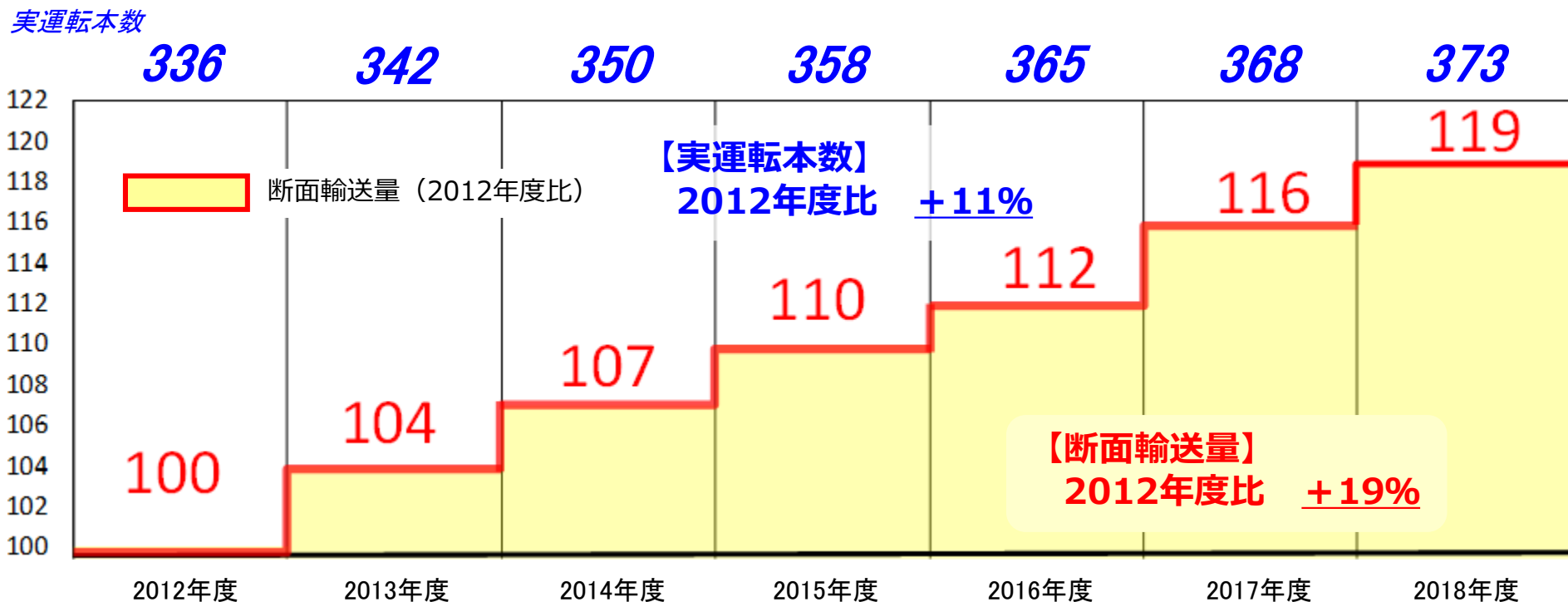
代表取締役 副社長
総合企画本部長
巢山 芳樹

東海旅客鉄道株式会社
2019年4月26日

ビジネス・観光ともに順調に推移

2018年度（実績） 前年比 **103%** （平日102%、土休日104%※）

※平日、土休日は1日平均の対比



高水準の前年度並みを確保

2019年度（見通し） 前年比 **100.7%**

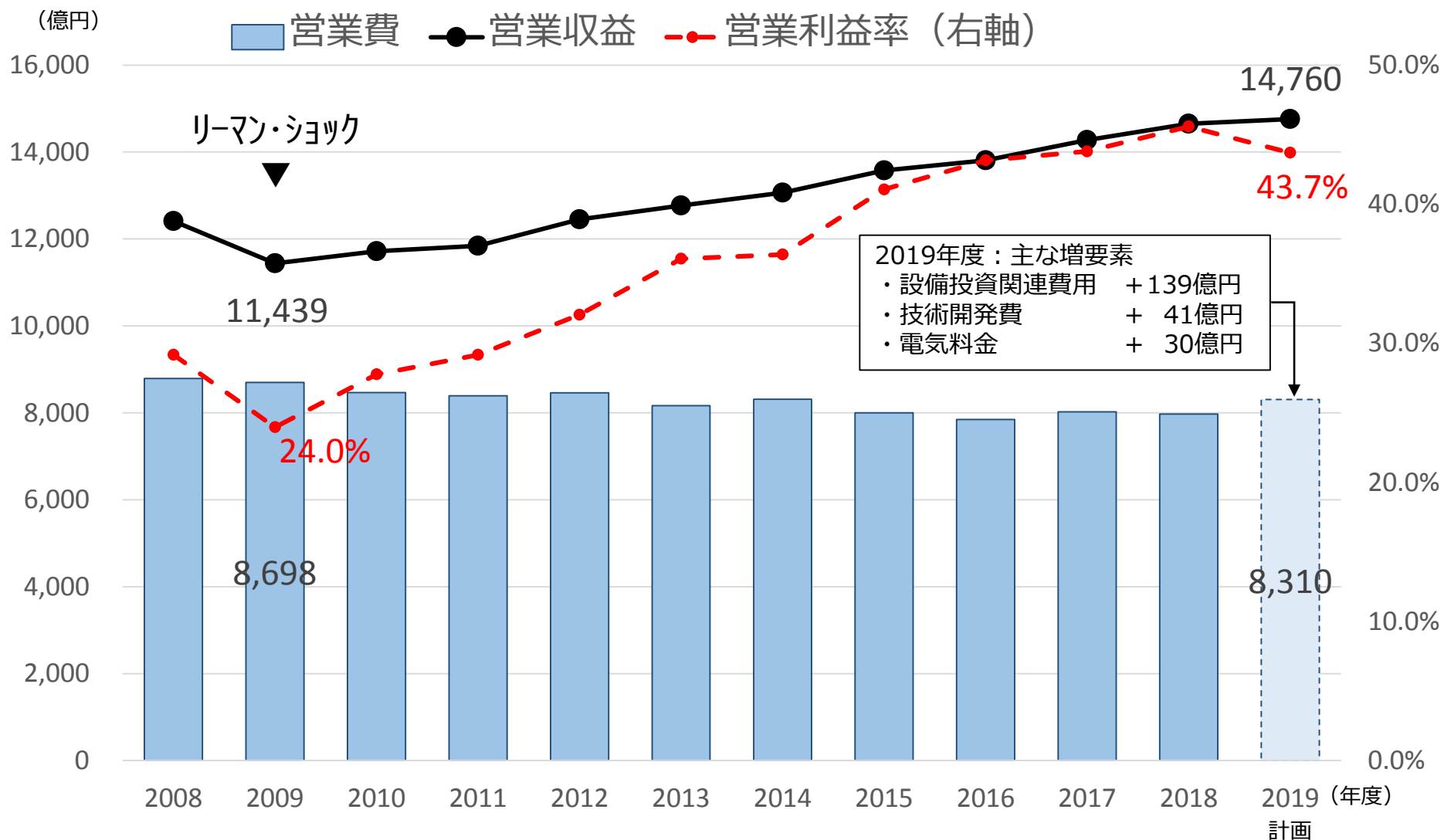
通期業績予想 (単体)

(億円)

	2019年3月期 実績 A	2020年3月期 予想 B	増減 (B-A)
営業収益 (運輸収入)	14,648 (13,966)	14,760 (14,070)	+111 (+103)
営業費	7,971	8,310	+338
人件費	1,797	1,780	△17
物件費	3,817	4,160	+342
動力費	431	460	+28
修繕費	1,405	1,680	+274
業務費	1,980	2,020	+39
租税公課	422	420	△2
減価償却費	1,934	1,950	+15
営業利益	6,677	6,450	△227
經常利益	5,901	5,680	△221
当期純利益	4,140	3,990	△150

営業費（単体）の状況

引き続き低コストで効率的な業務運営による経営基盤の強化を図る



通期業績予想（連結）

（億円）

	2019年3月期 実績 A	2020年3月期 予想 B	増減 (B-A)
営業収益	18,781	18,910	+128
運輸業	14,613	14,710	+96
流通業	2,649	2,700	+50
不動産業	821	820	△1
その他	2,610	2,630	+19
営業費	11,683	12,150	+466
営業利益	7,097	6,760	△337
運輸業	6,648	6,400	△248
流通業	96	80	△16
不動産業	202	200	△2
その他	161	90	△71
営業外損益	△771	△770	+1
経常利益	6,326	5,990	△336
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,387	4,160	△227

※セグメント別の内訳はセグメント間取引の相殺消去を行う前の数値です。内訳の合計値は営業収益・営業利益と一致しません。

◆大規模改修工事

← 3ヶ年計画
← 4ヶ年計画 →

(単位: 億円)

年度	2013～2015 実績	2016 実績	2017 実績	2018 実績	2019 計画	2020～
投資実績・計画	753	340	363	361	340	未定
うち、P/L計上分	506	233	246	249	233	未定

◆脱線防止ガード敷設工事

← 既計画 (646km) →

年度	2009～2017 実績	2018 実績	2019 計画	2020～2028	計
軌道延長	427km	95km	98km	426km	1,072km
投資額	961億円	170 億円	178 億円	未定	約2,100億円

※投資額には土木構造物対策、逸脱防止ストツパにかかる費用も含む。

N700系の置き換え車両として、N700Sの投入準備を着実に進める

安全性・安定性の向上

- ・ **地震時のブレーキ距離短縮**
- ・ 着雪防止対策の強化
- ・ 状態監視機能の強化

異常時対応力の強化

- ・ **バッテリー自走システムの搭載**
- ・ 防犯カメラの増設
- ・ 通話装置の機能強化
- ・ 停電時におけるトイレ機能の確保

快適性・利便性の向上

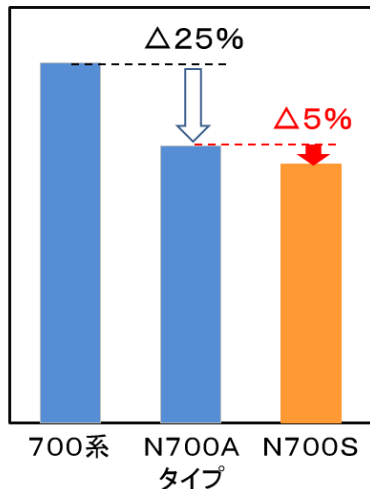
- ・ フルアクティブ制振制御装置の搭載
- ・ モバイル用コンセントの増設

主な 特長

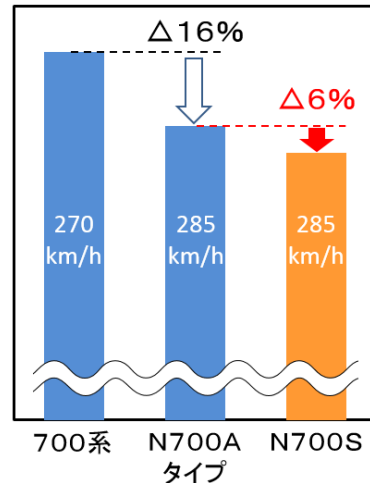
ランニングコストの低減

- ・ **消費電力量の削減**
- ・ 検修作業の省力化

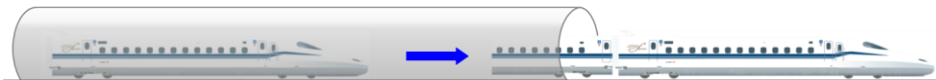
285km/hからの地震時のブレーキ距離



消費電力量



・バッテリー自走システムの活用方法 トンネル

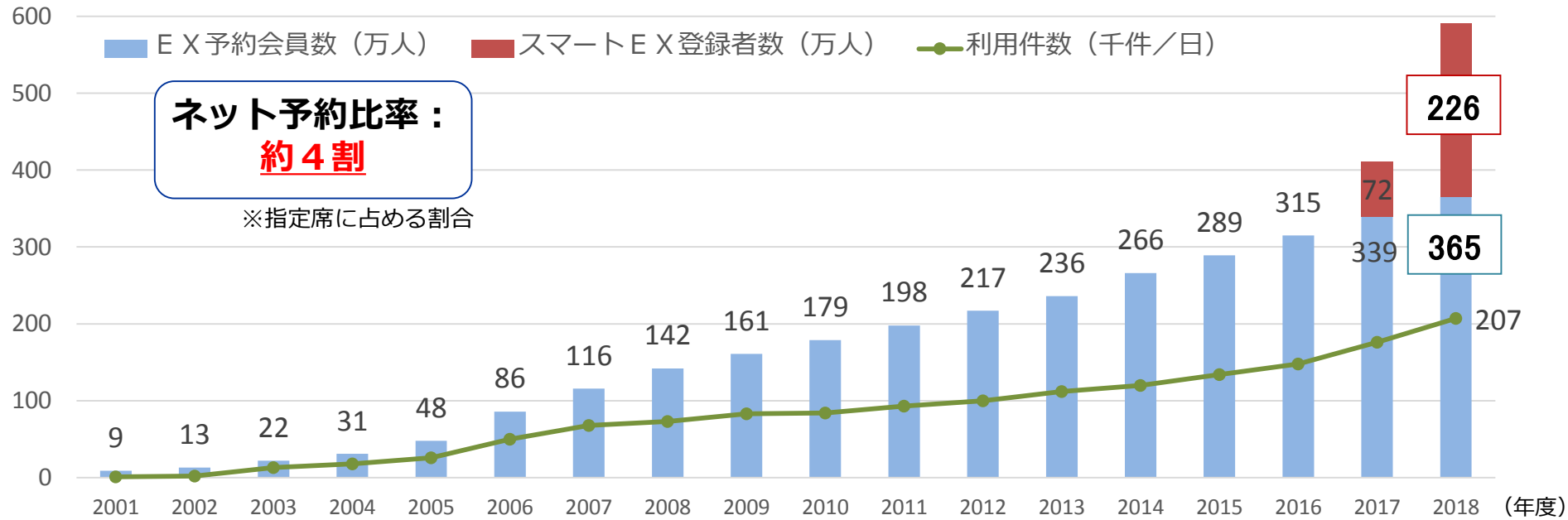


自然災害等の長時間停電時においても、トンネルや橋りょう等をお客様の避難が容易な場所へ自力走行が可能

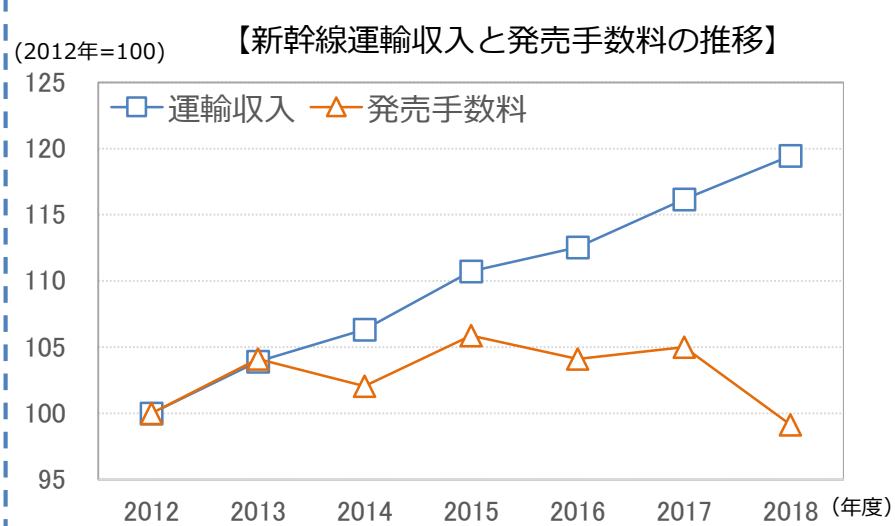
【確認試験車による2019年度の走行試験】

- ・ 長期耐久試験
- ・ 速度向上試験 (360km/h)
- ・ バッテリー自走試験

中央新幹線開業に向けて、より便利で効率的な販売体制を目指す



	勤務先	移動	きっぷ売場	改札
紙のきっぷ	出発	—	注文・予約・決済	入場
EX-IC	注文・予約・決済	—	—	入場
			きっぷ売場に並ぶ必要なし	



■ J RセントラルタワーズとJ Rゲートタワーの一体的な運営による収益拡大



【ゲートタワーの主要事業の状況】 ※百貨店、ホテル、ビル

【ジェイアール東海高島屋】
 売上(2館合計) : **1,627億円**
 (前年比104.4%)

【ホテル稼働率】
 ゲートタワー : **92.4%**
 マリオット : **83.0%**

【ビル事業】
 オフィステナント :
ほぼ満室

【ゲートタワーの主要事業の業績への影響】

	2018年度 実績	2019年度 予想
営業収益 (連結)	約150億円 (対前年+約20億円)	約150億円
営業利益 (連結)	20億円程度	30億円程度

■ 東京駅において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、商業開発を進める

- ・ 商業区画を2倍に拡充し、お土産店をリニューアルするとともに、カフェ等を新設
- ・ 話題や人気の商品等を取りそろえ、お客様の多様なニーズにお応えする

2020年春 営業開始予定



きっぷうりば

新幹線改札

物販店

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。